

ねらい

【1年生】○学びに向かう力、人間性等:楽しく砂や土に体全体で触れながら、思いついたことを試す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

○知識・技能:砂や土に体全体に関わり活動するときの感覚、行為を通して、いろいろな形や触った感じに気づくことができる。山をつくったり穴を掘ったり、型抜きをしたりするなど手や体全体の感覚などを働かせて、活動を工夫してつくる。

○思考・判断・表現:砂や土の形や触った感じなどを基に造形的な活動を思いつき、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考える。砂や土、つくったものなどの造形的な面白さや楽しさ、造形的な活動、つくり方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

【5歳児】○砂や土の感触を存分に味わいながら、友達や1年生と一緒に遊ぶことを楽しむ。

本時のポイント

・事前研を行った際に、お互いのねらいを共有したうえで、環境は幼稚園で整えることを話し合った。道具は豊富に用意し、動線に配慮して環境をつくることを相談した。またその際に、1年生担任から「(土を人に投げない・つくったものを壊さないなど)事前に約束しておくことはありますか」と質問をうけ、「きっと子どもたちは今まで経験して知っていることだと思うし、もしそのようなことが起こったら、そのときに子どもたちと話し合います。幼稚園はそのような場面を大切にしています」とこたえた。1年生担任は、幼稚園の思いを柔軟に受け止めてくださった。

実践内容

5歳児が前日に楽しんでいた“マグマ”の遊びを再現して遊び始めると、1年生も一緒に楽しむ。遊びを通して、少しずつ関わりが生まれる。



遊びがぐっと面白くなった。
ポイントは“水”であった。



5歳児の姿に刺激を受け、自分たちでも様々な用具を使って“マグマ”をつくりはじめた1年生。5歳児の遊びをヒントに、さらに面白くなるよう考え、遊び始める姿が見られた。また友達同士の言葉のやりとり、役割分担は1年の発達の育ちを感じた。

4~5つほど遊びの場ができ、それぞれでやりたいことを見つけ夢中になって遊ぶ姿が見られた。同じ場で1年生と5歳児が遊び、互いにやっていることを見て興味をもつ姿が見られた。



交流を振り返って

事前研の際に、1年生の担任が幼稚園の思いに耳を傾け、柔軟に対応してくださったことで、子どもたちがのびのびと安心した雰囲気の中で交流に臨むことができた。結果、それぞれがやりたいことを存分に楽しみ夢中になって遊ぶ姿に繋がった。

幼稚園と小学校、相互の思いを素直に出し合える機会をつくったことで、教員同士も学び合うことができた。また、交流がさらに実りのあるものとなり、教師が明確なねらいをもって交流にのぞみ、互いのねらいを達成することに繋がった。